

ポイント1 洗濯前のひと手間で洗いがりに差が！

洗濯前に是非やっておきたいのが「洗濯物の仕分け」「シミ落とし」「色落ちのチェック」。このひと手間が衣類を長持ちさせるポイントになります。

洗濯物の仕分け

洗濯機でジャブジャブ洗えるもの、デリケートな生地やデザインのもの、いつまでも白さを保ちたいものなど、洗濯物の種類に合わせて仕分けします。

○洗濯機でジャブジャブ洗える

生地が綿・ポリエステル・アクリル・ナイロンなどで、繰り返し洗いに強いもの。



○優しく手洗いしたい

生地がウール・絹・レーヨン・アセテートなどデリケートな素材で型崩れしやすいもの。

※生地が綿であってもフリルやレースなど飾りがあしらわれているもの。



○「単独洗い」とすると安心

生地の種類にかかわらず、色落ちする可能性のあるものや白さを保ちたいもの。



シミ落とし

油性のシミはなかなか落ちないので、洗濯前に落としておきます。

※シミが付いたらすぐに落とすのがお勧めです。

①ティッシュペーパーなどでシミをつまみ取る。

※こするとシミが広がるので要注意！



②衣類の下にタオルを敷き、中性洗剤を付けた歯ブラシでたたき、汚れを下のタオルに移す。



③水を含ませた歯ブラシで衣類に残った洗剤をたたき移す。

※その後で必ず全体を水洗いする。



色落ちのチェック

色落ちが心配な衣類は表から見えない部分に洗剤を塗り、布でこすってみます。布に色が付いたら、「別洗い」を。



ここがポイント！ 洗濯の基本

近ごろは、洗濯機がどんどん進化し、洗剤の種類もますます増えてとても便利になりました。けれども、衣類を傷めず、生地の風合いや色合いを長く保つためには、基本的な洗濯の知識が欠かせません。そこで今回は「洗う前にやっておきたいこと」「衣類に合った洗い方」「干し方のコツ」といった洗濯の基本を中心に紹介します。

教えてくださった方 NPO法人 日本洗濯ソムリエ協会

代表幹事 橋本 英夫さん



「洗濯ソムリエ®」とは、洗濯やアイロンなど衣類を長く愛用するために必要な知識に関する同協会認定の資格。橋本さんは洗濯の知識を広める活動を展開するかわら、衣類を再生させる技術開発にも取り組んでいる。
<http://www.sensom.com/>

さらにもうひと手間で、洗いがりがランクアップ！

下洗いをするとすっきりさっぱり

エプロンに付いた食用油の汚れは、食器洗い洗剤をもみ込み、油を落としてから洗濯機へ。ガーデニング用手袋などの泥汚れは、ブラシで泥をかき出してから洗濯機洗い。

裏返して傷みを防ぐ

レースなどの飾りが付いているものや毛羽立ちやすいスウェットなどは、裏返してから洗うと、生地の傷みを少なくできます。

広い汚れはつけ置き洗い

広い範囲に付いた汚れは洗う前につけ置きを。生地に合わせた洗剤をぬるま湯で溶いたものにしばらくつけ、その後で洗います。
※ウールや絹はつけ置きに向きません。



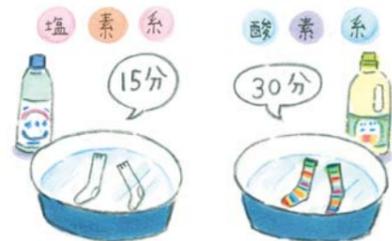
基本を知って失敗知らずの洗濯を
ジャブジャブ洗った洗濯物がパリッと乾く…。これから夏へ向けての洗濯は、気分爽快になれる家事の一つといえるでしょう。その一方で「お気に入りのブラウスのシミが取れない…」「あつという間に生地が傷んでしまった」といった、古い経験のある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。洗濯は洗って干すというシンプルなお作業だと思われがちですが、洗濯前の準備や洗剤の選び方・洗濯方法などを間違ってしまうと、お気に入りの衣類がだめになってしまいうことも。そんな失敗も、洗濯の基本を知っていれば防ぐことができます。大切な衣類を長持ちさせるためにも、洗濯の基本をしっかり押さえておきましょう。

もっと知りたい! Q&A

Q 「つけ置き洗い」の効果が今ひとつ…。
どれくらいつけておくといいの?

A 一般衣類用洗剤の洗剤液の場合、つけ置き洗いの時間は30分～2時間が目安です。つけたままにすると一度取れた汚れが再び付着することがあるので注意を。

〈漂白剤につけ置きするときの目安〉
・塩素系漂白剤で白ものを漂白するときは15分
・酸素系漂白剤で色柄ものを漂白するときは30分



Q 洗濯機の中で洗濯物が絡まってしまうのを防ぐ方法はある?

A シャツ類などの長袖の衣類は洗濯物の絡まりの原因になりがちです。畳んで洗濯ネットに入れて洗うのがお勧めですが、袖を胸元で交差させるようにして袖ボタンと衿元のボタンを留めておく方法もあります。



お気に入りの衣類をひと手間掛けていてねいに洗濯すると、衣類が長持ちすると同時に衣類への愛着もますます高まります。洗濯をする機会が増えるこれからの季節は、洗濯の腕を上げるのにぴったりです。基本を踏まえながら、洗濯ライフを楽しんでみませんか。

基本を押さえて洗濯の腕を磨きましょう

ポイント3 型崩れを防ぐ・早く乾かす

最後のステップ「干す」作業では、洗濯が終わってすぐに干すのが大原則。型崩れをしないよう、できるだけ素早く乾かしましょう。

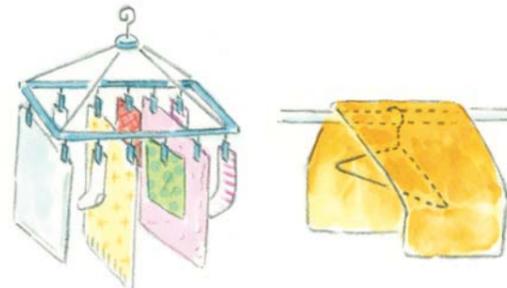
○シワをのばす

脱水後すぐに洗濯物を取り出して振りさばくと大きなシワが取れます。小さなシワをのばすには洗濯物を両手で挟むようにしてバンバンと叩きます。



○風の道を作る

シーツなど大物はハンガーを吊るした竿に干し、布の間を空けます。また、大きなものと小さなものを交互に干すと、風が通りやすくなります。



○早く乾かす

ポケットや縫い合わせ部分が多いボトム類は裏表を返して筒状で乾かします。フード付きの服は、生地が重ならないように逆さに吊るして、フードの中に洗濯ネットを入れて広げると、さらに乾きやすくなります。



ポイント2 衣類を傷めないように洗う

綿など繰り返し洗いに強いものは「洗濯機洗い」で、同じ綿でも繊細なフリルやレースが付いている下着類は「手洗い」というのが原則です。前ページの〈ポイント1〉で仕分けたグループごとに洗いましょう。

洗濯機洗い

一般衣類用洗剤 (弱アルカリ性洗剤)



○頑固な汚れを「前洗い」

衿汚れが気になるシャツ類は、部分洗い洗剤を塗り付けてから、洗濯機へ。



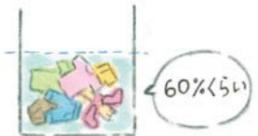
○人肌の水温がベスト

洗濯するときの水温は「人肌」くらいが一番汚れ落ちがいいといわれています。水道の水にお湯を足し、人の体温と同じくらいのぬるま湯で洗うのがお勧めです。



○詰め込みすぎない

洗濯機で実際に洗濯できる量は、洗濯機に記されている「○kg」という容量のおよそ60%を目安にしましょう。



○ネット洗いを賢く活用

デリケートな衣類を手洗いコースで洗うときは、洗濯ネットを使って。絡まりやこすれ合いを防ぎます。1つのネットに入れる衣類は1つまでに。



大物は畳んでネットに入れるのがお勧め

頻繁に洗いたいシーツなどの大物は、きちんと畳んでネットに入れて。シワにもなりにくく、干すときも手間が掛かりません。ネットにぎゅうぎゅう詰めするのはNG。詰め過ぎると汚れが落ちにくくなります。

手洗い

おしゃれ着洗い (中性洗剤)



○シワ防止には「振り洗い」を

シワになりやすいシルクなどは、振り洗いがお勧め。洗剤液に浸してゆっくり揺り動かします。



○汚れ落としは「もみ洗い」が一番

丈夫な生地であれば、衣類を両手で持ってもむようにします。頑固な汚れも良く落ちます。



○縮みやすいものは「押し洗い」で

ウールのセーターなど縮みやすいものは、洗剤液に浸して押し洗います。押しときはあくまでも優しく。



○すすいだ後は洗濯機で脱水

脱水モードは「弱」を設定し、(衣類の種類により異なります)1分程度を目安に。



※このほか塩素系漂白剤・アイロンの温度・絞り方・干し方などについての表示があります。

ドライクリーニングについて

ドライセキユ系

ドライクリーニングができる ※ドライクリーニングをしなければならぬという意味ではありません。

手洗いについて

手洗い 30 中性 ネット使用

洗濯機洗いについて

弱 30 中性 ネット使用

洗うコースは弱水流

この水温以下で洗う 中性洗剤を使うこと ネットの使用がお勧め

洗う前に「洗濯マーク」を確認しましょう。